西山清選手

日本スポーツ賞受賞の栄に輝く

去る1月28日、読売新聞社制定の第43回日本スポーツ賞が日新製鋼・西山清選手に授与されました。ハンドボール界からは去年の橋本行弘選手に次いで6人目の栄えある受賞です。

同選手は富山県立氷見高校で国体優勝、インターハイ準優勝2回、筑波大学での学生リーグ得点王3回の実績を買われて1982年に日新製鋼に入社。同年開催の第7回日本リーグでは早くもベスト7に選ばれる等、同チームの中心選手として活躍。1981年から在籍したナショナルチームにおいても主力選手としてロスアンゼルス、ソウル両オリンピックをはじめ出場した国際試合数は98回の多きに達しています。

又、昨年6月20日には日本リーグ通算得点612点の新記録を樹立されたことは読者の記憶にも新しいと思います。

現在は日新製鋼チームの監督兼選手として大活躍、第18回日本リーグの優勝を成し遂げられました。この受賞を機になお一層のご活躍をお祈り申し上げます。

CONTENTS

写真提供：㈱スポーツイベント

3月度 行事予定

●大会

全日本チャレンジマッチ　広島市東区SC

3/10 男子 全日本B・ジュニア：日本リーグ選抜
　男子全日本：学生選抜
3/11 男子日本リーグ選抜：学生選抜
　男子全日本：全日本B・ジュニア
　女子全日本：学生選抜
3/12 男子学生選抜：全日本B・ジュニア
　女子全日本：学生選抜
　男子全日本：日本リーグ選抜

24〜28 全国高校選抜 名古屋市
3/26〜27 第2回JOCジュニアオリンピックカップ 堺市

●会議

3/12 3月度常務理事会

●その他

3/11〜13 コーチ・レフェリーシンポジウム 東京

日本協会だより

1月度拡大常務理事会

日時　平成6年1月22日10：30～18：00
場所　岸記念体育館会議室
出席　中澤専務理事、常務理事8名、市原、福地理事、西山医科学委員長、藤原女子強化専門委員長、緒方全日本女子監督

午前中は定例常務理事会とし、平成6年度予算の審議を行った。

1．平成5年度予算執行状況
ア．年度末で収入不足が予想されるため、未執行事業を見直し、経費の削減に努める。
イ．各委員会の経費処理基準に不統一の面があるため、現状を調査し、改善を図ることとした。
ウ．審判委員会の追加行事IHFレフェリーコースの経費は補正予算を組むことに決定。

2．平成6年度予算案について
ア．強化事業費は原案通りとする。但し、ジャパンカップに関する費用は保留とし、計画が具体化した段階で検討することとした。
イ．その他の事業費はおおむね前年比5％減とした。

14：00より常務理事に上記のメンバーを加えて拡大常務理事会を開催。

1．女子ナショナルチームの強化について
ア．井強化委員長がAHFの会議出席で不在のため、藤原女子専門委員長が基本方針を説明。現在のナショナルチームとジュニアチームの間に、男子同様にナショナルBを設けることについて提案がなされた。
イ．緒方監督より基本方針、現状、今後の計画、問題点と要望について説明。アジア大会銀メダルを目指し、4月から予定している6ケ月間にわたる長期合宿に全面的な協力要請がなされた。

2．男子世界選手権東アジア地区予選
大会規模、日程の案について報告があり、アジア連盟COC会議出席の井常務理事の帰国を待ち具体化する。

3．広島アジア大会
日本協会の役割分担について説明、9月下旬から約20日間専念できる人を中心に人選する。第1回合同打ち合わせを1月29日～30日に行う。

4．97世界選手権大会招致
斎藤会長指示の特別委員会のうち財務委員会について検討を開始。近日中に会長に報告。3月には具体化したい。
日本招致委員会の下部組織として熊本県内の盛り上げを図るための熊本招致委員会が2月22日に発足する予定。

5．国体リハーサル大会
平成9年大阪大会のリハーサル大会（平成8年開催）から社会人大会に切り替える。

6．賛助金
個人会費を平成6年度より1口1万円とする。これに伴い、役員会費も値上げする。

以上

千葉で華やかにオールスター戦

日本リーグ運営委員会　委員長　殿水　幸雄

第7回日本ハンドボールリーグオールスター東西対抗戦が、1月23日、千葉県市川市国府台体育館で開催された。90年の第6回大会以来4年振りの今大会は、男女とも1点をめぐるシーソーゲームを展開。日本を代表するトップスターたちの好プレーの応酬に、超満員のスタンドが沸いた。

Jリーグ並みの派手なパフォーマンスまで飛び出した女子戦は、これまで3勝3敗の五分の対戦成績ながら、3連敗中の西軍がGK川島の堅守から比嘉、中山の速攻プレーと西、日比野らの力感あふれるシュートに威力を見せ、GK村山の好キープと白、小松のロングシュートを軸とする東軍を後半抜き去って1点差勝ち。

人気タレントで名誉ナショナルプレーヤーのそのまんま東さんの実況解説もあって、賑やかなムードの中でスタートした男子戦は、序盤から活発な打ち合いとなる好ゲームを展開。ベテラン首藤のミドル、ヤングスター岩本の高打点シュート、ポストへのアクロバチックなパスプレーなどでペースを握った東軍が、後半出だしには4点を先行。これに対して西軍は、中盤以降スムーズなコンビネーションを展開させて逆転に成功。林のロング、堀田のサイドシュートなどで17分過ぎには逆に4点のリードを奪った。リーグ戦上位4チームからピックアップされた豪華メンバーにふさわしい底力を見せた西軍は、フリースローのフォーメーションプレーからGK橋本が果敢にシュートを放ってファンを沸かすなど、余裕の攻守を見せ、そのまま逃げ切った。

通算対戦成績は男子西軍が5勝2敗、女子西軍が4勝3敗となった。

表彰選手は別掲の通り。

また、立見が出るほどの大観衆を集め、綿密な準備と円滑な運営を行って下さった千葉県協会、並びに本大会開催にあたり協賛下さった株式会社アシックス他各社に、この場を借りて心より感謝申し上げる次第です。

▽ＭＶＰ　男子　堀田 敬章(西軍・湧永製薬)
　女子　西　朋子(西軍・ブラザー工業)
▽敢闘賞　男子　首藤 信一(東軍・大崎電気)
　林　珍錫(西軍・大同特殊鋼)
　女子　村山みどり(東軍・シャトレーゼ)
　比嘉 晴美(西軍・オムロン)
▽勝利監督賞　男子・井藤 英忠(西軍)
　女子・西窪 勝広(西軍)

オールスター戦メンバー

■西軍男子チーム

監　督		井藤　英忠	
コーチ		玉村　健次	
ＧＫ	①	橋本　行弘	(本田技研)
	⑫	宇田川竜也	(日新製鋼)
ＦＰ	②	木村　信弥	(日新製鋼)
	③	源内　利之	(日新製鋼)
	⑪	堀田　幸夫	(日新製鋼)
	④	玉村　健次	(湧永製薬)
	⑤	河原　隆雅	(湧永製薬)
	⑥	堀田　敬章	(湧永製薬)
	⑦	弥吉　圭一	(本田技研)
	⑧	末岡　政広	(大同特殊鋼)
	⑨	林　　珍錫	(大同特殊鋼)
	⑩	藤井　孝志	(大同特殊鋼)

■東軍男子チーム

監　督		松本　　勇	
コーチ		田口　長雄	
ＧＫ	①	工藤　　竜	(大崎電気)
	⑫	井上　耕一	(中村荷役)
ＦＰ	②	首藤　信一	(大崎電気)
	③	岩本　真典	(三陽商会)
	④	柏崎　信雄	(大崎電気)
	⑤	朴　　英大	(中村荷役)
	⑥	濱川　康一	(三陽商会)
	⑦	魚住　和彦	(大崎電気)
	⑧	岡部　哲也	(トヨタ車体)
	⑨	髙木　浩司	(中村荷役)
	⑩	田中　　茂	(三陽商会)
	⑪	呉　　龍基	(中村荷役)

■西軍女子チーム

監　督		西窪　勝広	
コーチ		池本　　聡	
ＧＫ	①	川島ゆう子	(オムロン)
	⑫	鷲見　美応	(ジャスコ)
ＦＰ	②	中山美和子	(オムロン)
	③	日比野雅子	(ブラザー工業)
	④	橋本奈美子	(オムロン)
	⑤	勝島八重子	(ジャスコ)
	⑥	西　　朋子	(ブラザー工業)
	⑦	比嘉　晴美	(オムロン)
	⑧	土師　基子	(ジャスコ)
	⑨	石村　智江	(オムロン)
	⑩	吉村　智子	(ジャスコ)
	⑪	山川　由加	(ブラザー工業)

■東軍女子チーム

監　督		穂積　豊彦	
コーチ		伊藤　宏幸	
ＧＫ	⓪	村山みどり	(シャトレーゼ)
	⑦⑦	坂本　和美	(日立栃木)
ＦＰ	⓪⓪	市来　未央	(日立栃木)
	㉒	新井　紀子	(日立栃木)
	⑭	松田　史佳	(北國銀行)
	⓪⑥	山岸理津子	(シャトレーゼ)
	㊺	飯塚　景子	(日立栃木)
	⑨⑨	小松　晃子	(シャトレーゼ)
	㊿	谷本　　泉	(北國銀行)
	⑲	白　　永蘭	(北國銀行)
	⑪	金　　兌英	(北國銀行)
	⑥⑰	上出恵美子	(北國銀行)

第43回『日本スポーツ賞』の受賞にあたって

日新製鋼ハンドボール部　西山　清

平成6年1月28日、読売新聞本社（東京都・大手町）にて、1993年度・第43回『日本スポーツ賞』及び競技別優秀賞の受賞式がありました。

この『日本スポーツ賞』は昭和26年に読売新聞社が制定され、日本スポーツ界では一番伝統があり、名誉のある賞です。この賞は、毎年アマチュアスポーツ全45競技団体から推薦された優秀選手、または団体の中から別掲の日本スポーツ賞委員会（青木半治・小野清子・柴田勝治・古橋廣之進・松平康隆他10名）により慎重な選考を行い、日本スポーツ界の最高の選手または団体（チーム）を選び、栄えの『日本スポーツ賞』受賞者を決定するものです。

なお、『日本スポーツ賞』の歴代受賞者は、次のとおりです。

①昭和26年　古橋廣之進（水泳）
②昭和27年　石井庄八（レスリング）
〜　　（別掲）
㊷平成4年　岩崎恭子（水泳）
㊸平成5年　浅利純子（陸上）

以上、錚々たる方々がこの『日本スポーツ賞』を受賞されています。今回私が受賞した賞は、『日本スポーツ賞』の中の競技別優秀賞という賞です。そして、その選出理由としては、今年度の日本リーグ（第18回大会）において個人通算得点の新記録（624点）を達成したことと、個人通算ペナルティースロー得点も更新中という理由によるものです。

いうまでもなく、この賞は現在国内のスポーツ賞の中で一番大きなものです。ということは、それだけの自覚と責任が受賞者に与えられたことにもなるのです。つまり、私自身受賞の喜びよりも、その賞の重みを強く感じています。

今後は、今回の受賞に恥じないよう、今以上の頑張りと責任をもった活動をしていきたいと思います。

歴代の受賞者

①昭和26年　古橋廣之進（水泳）
②27年　石井　庄八（レスリング）
③28年　山田　敬蔵（陸上）
④29年　長沢　二郎（水泳）
⑤30年　古川　勝（水泳）
⑥31年　笹原　正三（レスリング）
⑦32年　第24回世界卓球選手権日本代表選手団
⑧33年　曽根　康治（柔道）
⑨34年　山中　毅（水泳）
⑩35年　第17回ローマ五輪日本代表男子チーム（体操）
⑪36年　大日本紡績貝塚女子チーム（バレーボール）
⑫37年　三宅　義信（重量挙げ）
⑬38年　田中　聡子（水泳）
⑭39年　遠藤　幸雄（体操）
五輪特別賞・第18回東京五輪バレーボール日本代表女子チーム
⑮40年　重松　森雄（陸上）
⑯41年　深津　尚子（卓球）
⑰42年　鈴木　恵一（スケート）
⑱43年　君原　健二（陸上）
五輪特別賞・第19回メキシコ五輪日本代表サッカーチーム
⑲44年　第6回世界柔道選手権大会日本代表団（柔道）
⑳45年　西側よしみ（水泳）
第17回世界選手権男子代表チーム（体操）
㉑46年　中山紀子・湯木博恵（バドミントン）
㉒47年　田口　信教（水泳）
第20回ミュンヘン五輪男子日本選手団（体操）
五輪特別賞・札幌五輪ジャンプ（70m級）チーム（スキー）
㉓48年　第8回世界選手権日本代表選手団（柔道）
㉔49年　全日本女子チーム（バレーボール）
㉕50年　エベレスト日本女子登山隊（山岳）
㉖51年　第21回モントリオール五輪日本代表女子チーム（バレーボール）
五輪特別賞・高田　裕司（レスリング）
五輪特別賞・第21回モントリオール五輪日本男子代表団（体操）
㉗52年　河野　満（卓球）
㉘53年　山下　泰裕（柔道）
㉙54年　藤猪　省三（柔道）
㉚55年　瀬古　利彦（陸上）
㉛56年　釜本　邦茂（サッカー）
㉜57年　室伏　重信（陸上）
㉝58年　黒岩　彰（スケート）
㉞59年　山下　泰裕（柔道）
五輪特別賞・具志堅幸司（体操）
㉟60年　正木　嘉美（柔道）
㊱61年　中山　竹通（陸上）
㊲62年　小川　直也（柔道）
㊳63年　鈴木　大地（水泳）
五輪特別賞・斎藤　仁（柔道）
五輪特別賞・ソウル五輪選手団（レスリング）
㊴平成元年　伊藤みどり（スケート）
㊵2年　橋本　聖子（スケート）
㊶3年　岩崎　恭子（水泳）
五輪特別賞・古賀　稔彦（柔道）
五輪特別賞・アルベールビル五輪日本代表複合チーム（スキー）
㊷4年　浅利　純子（陸上）

5人以上のグループでご加入ください。	掛金（1人年額）	傷害保険（保険金額） 死亡・後遺障害	入院	通院	賠償責任保険（支払限度額）	共済見舞金
●スポーツ少年団、子ども会など中学生以下のグループ ●成人の文化活動、奉仕活動のグループ	400円	最高 2,000万円	1日につき 4,000円	1日につき 1,500円	対人賠償 1人 1億円 1事故 5億円 対物賠償 500万円	突然死および日射病、熱射病による死亡 120万円
●ママさんバレーなどの地域スポーツのグループ ●高校の運動部および大学・会社などのスポーツ同好会 ●一定の資格のある指導者のグループ	1,300円					
●老人クラブ団体 団体員が、おおむね60歳以上の人により構成された団体	600円	500万円	1,800円	1,000円		

注：ほかに学生連盟・実業団連盟に所属する団体の加入も扱っています。

■対象となる事故

● グループ活動中の事故　●往復途上の事故

■保険期間

平成6年4月1日より翌年3月31日まで（申込受付は3月より）

加入申し込み、資料の請求、お問合わせ　スポーツ安全協会各都道府県支部（主として教育委員会保健体育課および体育協会）、もよりの東京海上火災保険㈱の営業店にご照会ください。

（財）スポーツ安全協会

東京都渋谷区神南1-1-1 岸記念体育会館 TEL (03)3481-2431(代表)

第45回全日本総合選手権大会優勝報告／男子

基本に返っての練習が実を結ぶ

大同特殊鋼ハンドボール部監督　高村誠一

第45回全日本総合選手権大会において、15年振りに優勝することが出来、大変嬉しく思います。一昨年、昨年と2年続けて悔しい思いをしていただけに、「3度目の正直」が起こった今回は、選手ともども本当に嬉しい優勝でした。

私は、93年4月より前中本監督から監督を引き継ぐことになり、大きな不安があったものの、私に与えられた大きなチャンスと思い、一生懸命頑張ってきました。しかし結果は、全日本実業団5位、国体4位、日本リーグ4位と、せっかくそれまで中本さんが築いてこられた大同チームを私がぶち壊してしまった訳です。特に日本リーグ前期の1勝6敗という結果には、私自身かなり悩みました。しかし、そこでどん底に落ちたことは、後は登って行くだけだという、逆に開き直りにつながり、同時にそれは私を客観的にしてくれました。

なぜ勝てないんだろう、何が悪いんだろうと考えたところ、大きな問題点が見つかりました。それは、ノ・イムの両大砲を活かそうとすることが、逆にチームに悪影響を及ぼしていたということです。周りが大砲を活かそうとすればするほど、人任せ、無責任につながり、両大砲にとっても「ブロックが悪い」「パスが悪い」と責任転嫁につながっていたのです。そしてそれがチームにとって一番大切な信頼関係にヒビを入れていたのです。そこで悪循環を打ち砕くためには、心・技・体の全ての面で、個人個人がレベルアップすることが最重要であるという結論を出したのです。リーグ前期終了から後期スタートまでの2・5カ月間を、もう一度基本に戻り個々のレベルアップだけに費やしました。

具体的には、

①「日本一」という高くて大きな山を越えるためには、それだけにどれだけ高い山を、どれだけ多く越えてきたかで決まるということを選手ともども頭に叩き込んで、毎日のトレーニングの中である時は精神的に、またある時は肉体的に、非常に厳しい状況を作り、それを乗り越えてきました。一日ゲームがスタートしてしまうと、監督なんてほとんど何の役にも立たない、ということを強く感じていましたので、一日一日が勝負という気持ちでトレーニングしました。

②一番の基本である「走る・跳ぶ・投げる」というウエイトトレーニングをしっかりやりました。ゲームが近づき、それまでならコンビネーションのトレーニングをしている時期にも、基本に時間を費やしました。

③各ポジションの役割を整理し、絞り込み、特に自力で結果を出すことを中心に、各ポジションに別れてミーティングをし、トレーニングをしました。

こうやって書いてみるとお分かりのように、何も特別なことをやったわけではなく、ごく当り前の、各チームがやっておられる基本の部分をやったに過ぎませんが、なにはともあれ色々苦しむ中で、結局は基本が大切なんだということに気づき、今回それなりの成果を出すことができました。

しかし、皆さんがご覧になってお分かりのように、今大会の大同チームのハンドボールが本当に日本一のハンドボールかというと、決してそうは言えません。まだまだイージーなミスもありますし、やらなければならない事もたくさんあります。今はどこが勝ってもおかしくない紙一重の状態です。やはり今後は見る人に感動を与え、ハンドボールっていいなぁと思ってもらえるような、真の意味で日本一のハンドボールができるチームになる為に、さらに精進して行こうと考えています。

最後になりましたが、今回のこの偉業は、様々な人に助けられ励まされて達成できました。常日頃からご指導・ご支援いただきました学校・協会関係の諸先生方、暖かい応援をしていただいた全国の大同ファンの皆さん、そして強力なバックアップをしていただいている会社及び関係者、OBの皆さんに心から感謝申し上げますとともに、今後益々努力を重ねていく覚悟ですので宜しくお願い致します。ありがとうございました。

第45回全日本総合選手権大会優勝報告／女子

夢を叶えてくれた選手に感謝

北国銀行ハンドボール部監督　穂積豊彦

この大会は私の世代では東京で行われるという印象が強く、名古屋ではその雰囲気は何かもの足りなさがあった（東京の雑踏、千駄ヶ谷、駒沢の光景の印象が強すぎるのかも知れない）。この大会は私事だが、現役引退試合になった大会である。あれから9年が経った。そして、監督として女子チームを率いて初めて優勝したのが2年前、そして、昨年は1回戦で学生に敗れる屈辱を経験した大会でもある。

それだけにこの大会までの全日本実業団選手権、日本リーグで好成績であっても、それは不安を払拭するには何のプラス材料にもなり得なかった。目標は私も選手もオムロンを決勝戦で破ることで一致していた。しかし、まず2回戦の大和銀行を破らねばならない。昨年のことが頭から離れない。不安を持ちながらゲームに臨む。相手の研究は不十分。若いチーム故、勢いづかせないようにしなくては。うちが練習通りの動きが出来れば、絶対負けることはないと強く自分に言い聞かせる。結果は38－18の大差。内容はまずまず。第一関門は切り抜けた。

準決勝はブラザー工業。東女体大を延長の末破り、準々決勝の日立戦では相変わらずの得点能力を発揮し、勢いづいている。戦術はリーグと同じポイントを押えて行く。特にDFでどれだけ失点を少なくするかにかかっている。結果は36－23と、前半で勝負をほぼ決められるとは思ってもみなかった大差で決勝へ。私自身、このゲーム前にオムロンがシャトレーゼに敗れるのを見て、嫌な予感もしたが、逆に気を引き締め、集中することが出来た。選手の頑張りのお陰で、その不安も早く払拭出来た。

いよいよ決勝戦。早目に体育館に入り、TV放送や会場の準備を進めている関係者を見ながら、観客席で決勝に向けてあれこれ思案していた。対シャトレーゼの最近の戦績は分はいいものの、試合巧者である。いつも苦戦を強いられている。ましてや今大会での勢いは、普通じゃない。12時、決戦の笛が鳴る。立ち上がりから全く相手ペース。その勢いは、私の予想をはるかに上回るものであった。山岸選手の手のつけようのないロングシュートに代表される攻撃、守ってはいつにない速いつぶし、そして守護神村山選手。うちの選手は、まるで「蛇ににらまれた蛙」の如く動けない。さらに全てが消極的ときては、成す術がない。15－7と大差で前半終了。

今までやってきたことは何だったんだろう。選手を前にしても、しばらく言葉が出ない。「全然動いていない。もっともっと気持ちも身体も動かせ！　弱気になるな」語調も荒くなる。このままじゃ終れない。そして後半、立ち上がりから守って速攻といううちのパターン[illegible]出て、ジリジリと追い上げる。6点、5点、6点、5点、4点差。「よし、いける！」もう押せ押せでベンチも沸き上がる。しかし、相手もしぶとさでは一流である。しかし、うちも粘りに粘る。決まったと思った上出のシュートはチャージの判定で延長戦へ。よく頑張ってくれた。誉めてやりたいが、まだ終っていない。勝負は今からだ。山岸選手にマンツー。前半3－1、油断するな！　胃が痛くなる。後半の5分がこれ程長いものなのか。シーソーゲームの展開。残り20秒、白のロングがながし上につきささる。「守れ！　つぶせ！」もう絶叫である。待ちに待った笛、「ヤッターッ！」「やってくれた」本当にやってくれた。70分、メンバー交替も出来ず、本当に苦しかったと思う。でも報われた。地獄と天国を味わったゲームであった。

今年度最後のゲームは、大きな課題であった精神力を見せつけてくれた収穫の大きい優勝である。選手に脱帽である。胴上げも格別である。夢であったオーナーの胴上げも叶った。次々と夢を叶えてくれる選手に、心より感謝すると共に、応援して下さった会社、ご父兄、ファンの方々、そしてここに書き尽くせないお世話になった方々に心より感謝申し上げ、今後も期待に添えるよう頑張ってみたいと思います。

■ドイツ研修報告座談会■

いかにして次代の選手を育てるか

田口隆氏は92年度ＪＯＣ在外研修員として1年間、ドイツのケルン体育大学、クラブチーム等でトレーニング方法、ハンドボールに対する理論的な考え方を研究テーマとして、またヨーロッパ各地で行われた各種イベントにも参加され、昨年11月に帰国しました。

この間、「コーチ研修報告」として機関誌に連載させていただきましたが、誌面に載らなかったエピソードなど、本音を語っていただくために座談会を開催しました。

◆司会　お忙しいところ、ご出席いただきありがとうございます。遠くドイツから1年間、機関誌に寄稿いただきありがとうございました。機関誌の委員長としてお礼申し上げます。

◆中澤　1年間ご苦労様でした。ハンドボールのＪＯＣ在外研修員としてドイツに派遣され、慣れない環境の中で、ご苦労もあったかと思います。この経験を生かして、本年は大変な年でありますけれど、研修で得られた考えを発揮して頑張って下さい。

[出席者]
田口　隆（全日本男子ナショナルコーチ）
蒲生　晴明（全日本男子ナショナル監督）
関　健三（全日本男子ナショナルコーチ）
中澤　重夫（日本協会専務理事）
大西　武三（日本協会常務理事）
（司会）植村　繁（日本協会常務理事）

◆司会　機関誌を読まれた方は大変興味があったと思いますが、ここでは記事にならなかったウラ話や苦労した事などがありましたらお聞かせ下さい。

◆田口　言葉の面では苦労しました。子供が高熱を出し、病院へ行った時は症状を伝える事は出来たのですが、診断の結果を聞くのに困り、筆記していただき、辞書を片手にようやく理解できました。また、いろいろな情報を得るのにも当初は大変苦労しました。しかし、その後ドイツのＡＳＩＣＳさんを通してドイツ以外の国々のハンドボール関係者とコンタクトを取る事が出来、大変助かりました。

◆司会　ドイツのハンドボールクラブでの選手の身体づくりについてお話し下さい。

◆田口　私が見た限り、18才以下のジュニア選手は週2回という練習量のためか、大きな故障をしている選手は見当たりません。また週2回の練習以外、各トレーナーから筋トレメニューを渡されて実施していたことも大きな要因ではないでしょうか。20才くらいまでに最低限必要な身体を作り上げ、その後、技術的、肉体的に磨き上げるという感じでした。そして年間のトレーニング・スケジュールがしっかりしていて、この時期にはこのトレーニング、このトレーニングは今を見てのことか、将来を見てのことか、はっきり時間的にも個人的にも区別されていました。私がお世話になったドルマーゲンでは、ジュニアの選手も同じ施設を利用することもあり、トップの選手たちにとってよい見本が身近にあり、また刺激を受けていました。

◆蒲生　日本の場合は怪我が多く、合宿を計画しても予定していた選手が参加出来ないことがあります。このことはドイツと違い、スケジュールの組み立てが一番の原因ではないかと思います。1年間を通し、オフシーズンや本格的なシーズンを確立する必要があるのではないでしょうか。合宿メンバーに選んでも辞退したり、また途中で帰ってしまうことがあるので、ナショナル選手としてプライドがあるのか考えてしまうことがあります。「ナショナル選手になることは名誉だったが、今では苦痛だ」と、よく耳にします。若い人の考えがどうなっているのか…。

◆田口　日本も試合のスケジュールを見通すことにより、休養や基礎体力アップなど身体のメンテナンスをする時間を取ることが出来るのではないでしょうか。

◆中澤　選手の強化について、日本とヨーロッパ（ドイツ）との体制の違いについてお聞かせ下さい。

◆田口　ヨーロッパではジュニアの選手を徐々に作り上げ、頂点でのチーム作りに主眼を置いているのに比べ、日本では各層（中学・高校・大学）でのチーム作りに主眼が置かれているのが大きな違いではないでしょうか。私がお世話になったスウェーデンのチームでは、トップチームの選手がジュニアチームの指導を行っていまし

た。それは自分の持っている知識の再確認をする意味でも良いという事で、進んでやっていました。ドイツではブンデスリーグの1部の監督になるには、トレーナーのAライセンスを持っていないといけない仕組みになっています。

◆大西　ヨーロッパでは選手が指導者を見てチームを選べますが、日本の場合は、指導者は選べない。また、職人気質が強く、よい仕事をした人がよい指導者だというイメージがあるのではないでしょうか。

◆蒲生　日本でもスイミングクラブ、柔道、剣道教室などは自由によい指導者のいるクラブや教室を選べますが…。

◆中澤　子供が学校に入学すると、その学校の指導者のもとで指導を受ける。この指導者が優れていれば、選手として成長して行く。日本のハンドボール界は、小学校、中学校には素質のある選手がいるが、高校、大学と進むにつれて指導者に恵まれないケースがあるようで、それにハンドボールを楽しむ施設などが少ないためもあると思います。

◆司会　ハンドボールの醍醐味を知ってもらうには、どの方法がいいと思いますか。

◆蒲生　ホーム・アンド・アウェイをやるべきで、観客を増やすことが肝要だと思います。

◆田口　日本は全日本チームが国内でトップチームと[illegible]をすることが少ないため、外国選手のダイナミックなプレーをハンドボールファンが見ることができないのが現状。そのような大会が定期的に日本で開催されるようになれば、醍醐味を十分に伝える事が出来るのではないでしょうか。また、チームが地元で試合を多く行い、観客の声援を受けることにより、選手のハッスルプレーを引き出すことに繋るのでは…。

◆蒲生　多くの子供たちが観戦してくれることが嬉しいですね。現状では、自社の試合の時など、会社の関係者の人が多く見られますが。将来、子供たちがチームに入るきっかけは、トップチームの試合をよく見て、潜在的にこのチームに入りたいと思うようにして行くべきではと思います。自分の住んでいる町で行われる試合の応援に行き、地元チームの活躍を見て、それにあこがれてファンなって行くのでは…。

◆大西　地元に定着したチームを観戦してもらう、そして子供のチームを作り、親子で楽しめるスポーツとして盛り上げる。例えて言いますと、三陽商会の体育館を拠点として、子供や地域の人に開放いただいて指導をして行く。立派な施設があるので利用させていただけないでしょうか。

◆関　会社はいろいろな面で地域の人に還元するよう努めています。スポーツ施設についても、出来るようにしたいと考えています。

◆司会　体育館を開放した時、ハンドボールをする人が何人いるか。この施設を利用して子供にハンドボールを指導出来ればいいが、残念ながらそこに指導者がいないのが現状だと思います。

◆大西　サッカーは今が最高に盛り上がっています。ここに至るまでは大変だったと思います。それは優秀な指導者を育成したから、今のサッカーがあると思いますね。指導者になるための勉強会をして、指導者を育てています。ドイツは資格がないと指導者になれない。ハンドボールも飛躍するための準備期間が必要で、これからは指導者育成が肝要だと思います。

◆蒲生　その資格は取るべきだと考えます。しかしながら、取ることにどういう意味があるかの認識が遅れていると思います。

◆大西　いろいろ条件があるかと思いますが、人の上に立つ指導者になるには資格を取ることが必要だと思います。

◆司会　ドイツはスポンサー名をユニホームに付けることについての契約はあるのですか?

◆田口　クラブを運営していく中で、スポンサーからの資金が大きなウエイトを占めています。トップの選手はクラブとの契約によって報酬を[illegible]います。クラブは社会人、学生などから構成されていますが、大部分の学生プレーヤーは親から仕送りがなく（通常の学生でも自分で仕事を持ちながら勉強している）、ハンドボールによって収入を得ています。つまりアルバイトがハンドボールという事で、日本では考えられない事です。

◆蒲生　ドイツはプロ化が進んでいます。スペイン、フランス、イタリアも盛んです。これからのハンドボールの発展は、チームが地元に根づく事、地域の人々がいつでもハンドボールが出来る施設がある事、また一方ではプロ化が可能か否かを検討する事、現実とは離れますが青写真を作り、燃える大きな夢を作る事だと思います。

今回、田口君がヨーロッパで学んできたトレーニング方法を、今年5月の世界選手権東アジア地区予選、そして10月のアジア競技大会を前にして行っている合宿の中でも早速取り入れています。今後は全国のハンドボールファンの方々に田口コーチによる公開講習会を実施して行く機会があればと思います。

◆司会　今日は大変忙しいところ、中澤専務理事、大西先生にご出席いただき、また大崎電気（埼玉）体育館で合宿をしている3人の方々にご出席いただき、ありがとうございました。

AHF COCに出席して

AHF COCメンバー　井　薫

アジアハンドボール連盟の競技・組織委員会（COC）が1月24、25日にクウェートで行われました。

委員会構成は5名。中東3、極東2ですが、極東からは昨年についで私一人。しかし昨年はじめて顔を合わせて以来、バーレーンのアジア選手権大会や、クウェートでのIHF（国際ハンドボール連盟）の理事会等を通してメンバーに出会う機会が多く、親しくなり、その分リラックスして会議に臨めました。

議題1は前回の委員会についての項でしたので、発言を求め昨年の男女アジア選手権大会の日程が、再三変更になり、大変迷惑をした、今後このような事がないよう、またこの委員会の位置付けの説明を要望し、委員長のファルダン氏から充分注意する旨の回答を得た。

議題2は種目ごとの世界選手権大会のアジア予選の開催国、日時について。

（イ）　男子ナショナルでは極東にカザフスタンが入った事について、今回極東4、中東8のバランス上であり、今回のみの処置を確認。また2地区の予選会なので、レフェリー、役員等極力お互いで対応。大会運営のスリム化を提案したが、AHFとしての財源確保の問題もあり、開催権料や大会参加の負担額等検討。尚両地区2位による出場決定戦は9月中旬以降と決まり、試合方法は多分ホーム&アウェイになりましょうし、10月のアジア大会に近く、日本としては5月に予選突破を是非とも果たしたいものです。

アトランタオリンピック予選は、第8回のアジア選手権大会と兼ねる。これは95年秋、クウェート開催の公算大です。

（ロ）　女子ナショナルは、昨年9月のバーレーンでのAHF理事会で極東が提案したアジア大会包括は否決され、その後AHFから95年1月～3月に別途開催の通知がありましたが、この件はAHF及び中東グループとの交流の中で得る感触で、極東の意向を繁栄できる雰囲気を韓国、金宗河（AHF副会長）、渡邊（同理事）氏と共に察していましたので、今回の出席にあたり、極東金、渡邊、井の提案として議題アップを要請していました部分で、再討議を行ないアジア大会への包括を引き出しました。

これは女子にとって、最高の強化で臨むアジア大会、そして日本開催の好機を考える時、世界選手権の出場の夢に大きく近づくステップと思います。

アトランタオリンピック予選は、第5回アジア選手権大会と兼ねる、開催国、日時未定、再調整が必要です。

（ハ）　男子ジュニアは開催申込みがカタールのみで、そのカタールの条件が10月開催。この開催時期について、ジュニアを構成するのは学生が主体であり、過去男子3回、女子2回はすべて7～8月開催。これは夏季休暇で、日本と言うより極東はすべてこのシステム。時期の再検討を強く要望しましたが、カタールとしてはこの時期がベストシーズンという事で、極東に持ち帰り再検討を重ねて提案しますと、「あなたは日本の代表ではないし、極東の代表でもなく、COCのメンバーの一員なのだ」と決めつけられる始末でした。ただ時期が時期だけに、エントリーはしても出場出来ない国がある場合、ペナルティ等は課さない対応を望むと依頼しました。

（ニ）　女子ジュニアは開催申込みがなく、極東での再調整を一任されました。

以上が、種目ごとの世界選手権大会のアジア予選に関する討議ですが、今回は私の提案と言うより会場がクウェートで、AHFのお膝元である事を理由に、アプレイル事務局長にオブザーバーとして出席して貰いましたが、極東通の同氏の理解と協力に随分助けられました。

この他にもアジアクラブ選手権開催案や、世界選手権大会のアジア予選に関する規約等の説明、検討がありましたが、やはり大会スケジュールの調整、決定が最重要項目でした。また今回は日本協会、伊藤忠商事（木倉副会長）の山下クウェート所長に大変お世話になりましたし、昨年のバーレーンでのアジア選手権大会、あるいは11月のクウェートでのIHF理事会における熊本の世界選手権大会招致のプレゼンテーション等でも商社の皆様には大変お世話をいただいております。

この時期の中東湾岸は、気温20度、湿度がきわめて低いため、サラサラとした感じで快適でしたが、日本から乗り継ぎで28時間（待ち合わせ時間を含め）、遥かなる遠い国でした。

AHF COC会議報告

1　世界選手権大会アジア予選

男子N

極東5（日本、韓国、中国、台北、カザフスタン）

5月3日～8日　広島

中東8（クウェート、サウジアラビア、カタール、UAE、バーレーン、シリア、ヨルダン、イラン）

8月25日～9月5日　サウジアラビア

●第2次予選（極東、中東の2位による出場権決定戦）

9月15日～22日　この期間に2回戦

場所　①両国のいずれかで2ゲーム

②中立国で2ゲーム

③両国で各1ゲーム（ホーム&アウェイ）

方法決定はまず極東該当国が①～③を選択しAHFへ。9月6日、中東該当国とAHFが極東該当国の選択を参考にして調整決定、即連絡。

*オリンピック予選は95年アジア選手権大会（調整要）。

2　女子N

アジア大会に包含。同大会の最終締め切りは5月5日。

*オリンピック予選は95年のアジア選手権大会（調整要）。

3　男子Jr

11ケ国（日本、韓国、中国、クウェート、サウジアラビア、カタール、UAE、バーレーン、シリア、イラン、カザフスタン）

10月20日～11月1日　カタール・ドーハ

4　女子Jr

4ケ国（日本、韓国、中国、カザフスタン）

場所　未定（調整要）

◎調整要の部分は渡邊、金両AHF理事と行う。

国際審判員テスト、日本で開催！

審判委員会

国際審判員（ＩＨＦ／Ａレフェリー）の東アジア各国のテストが、平成6年2月21日から26日まで、埼玉県の大崎電気体育館を中心に行うことが決定した。受験者は日本2ペア、韓国1ペア、台湾1ペア、北朝鮮1ペアが予定されている。

ＩＨＦ／Ａレフェリーコースはここ何年も実施されておらず、ＩＨＦ／ＰＲＣ委員長エリック・エリアス氏に何とかアジアで実施してほしい旨、希望を出していたが、アジアや日本でそんなに国際試合があるのか？ 国際審判員は量でなく質である、という事で実現できなかった。考えてみればアジアや日本では国際審判員が吹く国際試合は年に数試合。昨年5月に来日したスウェーデンレフェリーは、なんと年間90試合くらい国外で吹いているとのこと。エリアス氏の言い分もよく分かる。

しかし、ここでＡレフェリーテストを実施しないと、アジア大会後は後藤君・清水君の1ペアとなってしまう。

◆外国語は必須

将来、国際審判員を目指すには、まず外国語（英・独・仏）のうち1ケ国語の会話が出来ることが必須である。いくら審判技術が優れていても、コミュニケーションが取れなければ国際審判員としては失格である。審判技術は経験と共にある程度は進歩する。まずは会話の勉強を！

◆カテゴリーＢ登録

カテゴリーＢになるには、各ブロック審判長や審判委員会メンバーの推薦を得て、カテゴリーＢ候補者の中から2ペアを決定し、ＩＨＦに登録する（世界各国ともカテゴリーＢは2ペア）。

◆カテゴリーＡになるには

1．カテゴリーＢに登録されている者が、公式ＩＨＦ／Ａレフェリーコースに参加し、実技テスト、理論テスト、体力テストに合格した者に与えられる。

2．公式ＩＨＦ／Ａレフェリーコースは、ＩＨＦにのみ開催権があり、公式用語（英・独・仏）の一つで行われる。3～5ケ国の参加がなければ開催出来ない。

3．公式ＩＨＦ／Ａレフェリーコースは2名のＩＨＦ／ＰＲＣのメンバーの指導のもとに行われる。

今回のテストには、ＩＨＦからボルスタット氏とパク氏が来日しますが、実技は2試合吹き、理論テストも英文30問中8割正解がないと不合格という難問である。日本の2ペアがんばれ！

国際情報

中東諸国の台頭と外国人コーチ

中東諸国のハンドボールがIHFに加盟しだしたのは、そう古いことではなく、1972年に戦後初めてハンドボールがオリンピック種目となったミュンヘンや、次いで行われたモントリオール後である。アジアからいち早くIHFに加盟したのは1952年加盟の日本であり、次いで1960年の韓国である。中東から初めて加盟したのは1962年のシリアである。今回、アジア選手権で2位となったクウェートは中東からの加盟としては4番目で、1970年のことである。

普及の面をチーム数から見てみると、1990年のIHF調べでは一番加盟の早いシリアで240チームである。クウェート、カタール、バーレーンは各々320、130、180チームに過ぎない。

次に述べることは標題から外れるが、旧ソ連の崩壊によって新しく生まれた中央アジアの国々が新加盟してきたが、昨年、中国で開催された女子のアジア選手権大会でカザフスタンが参加し、日本の女子と大接戦を演じ、女子の場合はこちらの国々が将来の強敵になる可能性が高いと思われる。

本題に戻って、日本のハンドボールファン並びに関係者が中東勢のプレイを目の当たりにしたのは1991年の広島でのアジア選手権の折であった。この時は1位から3位までが東アジア勢が占め、中東は4位のカタールが最高の成績であった。U．A．E、バーレーン等、どの国をとっても将来の東アジアの強敵になることが間違いないプレイぶりであった。

これらの国々の選手は運動能力的にも性格的にもスポーツ適性はあるものの、ここまで急激に力を伸ばしてきたのは外国から招いた一流のコーチの手腕によるものであろう。

筆者の知る限り、この大会では、クウェートが1986年世界選手権で優勝したユーゴの監督であったZ・ゾラン氏、カタールはロス五輪で優勝したやはりユーゴの監督であったA・アルスナラジッチ氏である。他の国も多かれ少なかれハンドボールの先進諸国から指導を仰いでいると思われるが、この二人はしのぎを削る欧州でのハンドボールで活躍していた指導者である。ハンドボールの後進国では決して短期で得られない経験をした指導者である。その経験と能力を導入し、一気に何十年の遅れを取り戻そうとする強化方法である。欧州のトップレベルの指導者は全てプロであり、プロであるが故の経験からもたらされるゲームに勝つためのノウハウは、我々に想像つかないほどのものがあろう。

広島に次いで昨年開催されたバーレーンでのアジア選手権大会では、あのイトウ・チェンコ氏がクウェートの監督として大会に出場してきた。

監督に就いたのは大会数ケ月前であろうが、世界に冠たる旧ソ連チームを作り上げた監督でもある。

イトウ・チェンコ氏

指導の座に就くだけでもその効果はあるものと推察され、これは手強い相手を敵に回してしまったと嫌な気にされてしまった。日本はこの大会ではスケジュールの再三の変更で現場は振り回され、また、ケガ人が多く、ベストメンバーで挑めない状況であったが、クウェートには2敗してしまう結果となり、嫌な気は現実のものとなってしまった。

話は変わるが、今から7年前に旧西ドイツのプロコーチであるヘルムート・コスメール氏を招いて技術講習会を開催したことがある。彼はハンドボールだけでなくサッカーの公認資格も持っており、両面でかなりの実績を残していた。二刀流は日本では考えられないことと驚いたが、協会幹部との歓迎会の席上で必死に「私をコーチとして雇ってくれ。雇ってくれたら必ず日本を世界の仲間入りさせてみせる」と売り込んでみせた。日本はそのような状況にないと断わったが、講習会終了後も日本に留まりコーチとしての職探しをサッカー協会にまで広げて交渉していた。その必死さにプロとしての厳しさを垣間見る思いであった。

ところが、その彼が昨年12月30日付けの朝日新聞朝刊スポーツ欄に「イランに外国人監督 イランサッカー協会は、イランナショナルチームの監督にドイツのヘルムート・コスメール氏を招聘した。29日のハムシャリ紙が伝えた。イランが外国人を監督にしたのは、改革後初めてのこと」と載っていた。やはりまだコーチを職業として頑張っているのだなと思われた。

日本にも欧州から外国人のコーチから雇用を願う問い合わせがくる。しかし、今の所、外国人プロコーチを雇うチームはない。日本ではプロではないがシャトレーゼの李監督以来誰も監督の座に就いていない。

国際化の波、プロ化の波は否応なしに押し寄せている。日本のハンドボールにインパクトを与えられるようなプロの外国人コーチが一人や二人はいて、先進のハンドボールを直に学ぶ機会を持てないものであろうかと思われる昨今である。

ヘルムート・コスメール氏

連載4

ハンドボールの指導法

指導委員会委員長　大西　武三

I　指導時間の確保

◎忙しい社会の中で

スポーツ指導は「人を集めて」「指導の時間と場所を確保する」ことから始まるが、その前提となるところが壁となり、指導に支障をきたしていることも多い。その壁の打破が指導者の立場を確立する第一歩となる。

指導者の多くは教員を中心とした社会人である。便利な世の中になってきているが、その反面、求められる仕事は多く、時間的にも体力的にも余裕がなくなってきているのが現代である。また、時代と共に価値観が変遷し、マイホーム的な傾向が濃くなりつつある。今日もＮＨＫニュースを聞いていると「夫婦に関する調査」として次の様な結果を発表していた。「相手に愛情を感じるか」に対して、妻は40％台、夫は60％台で夫の方が断然高く、「離婚を考えたことがあるか」は妻が48％、夫は28％で圧倒的に妻の値が高く、その理由は「家庭を顧みない」と言うものであった。これを私の妻に話すと「実際はもっとある」と驚かされたが、外で仕事をする男の家庭における肩身の狭さが思いやられるのである。

◎指導者になったからには

「コーチ10年目は曲がり角」という言葉のごとく、10年もすればプロでない限りハンドボール、ハンドボールと言っておられない現実もある。そのような中にあって指導に割ける時間はますます確保が困難になっている。しかし、なんとしても指導者となったからには練習に顔を出す必要がある。ハンドボールをやろう、と志した者がいるのである。そのもの達の心のよりどころ・支えとなってハンドボールをやった喜びを与えてやらなくてはならない。上手にし、強くしてやるのが指導者の本務かも知れないが、指導者の仕事はそれだけではない。側面から援助を差し伸べ、自主的に活動に取り組める体制を作ってやることも大きな仕事である。

◎指導者の二つの仕事

技術的なハンドボールそのものを教えてやること……「コーチング」とハンドボールを通して人間を育てること……「教育」は指導者としての二つの大きな仕事である。真のスポーツ指導は、この両面にわたって指導できることであり、現場に出なければ成し得ないことである。しかし二つの仕事をバランスよく出来る指導者ばかりではない。指導者の多くの人がハンドボールを経験せずに顧問となり、監督となっている現実もある。指導者としては不利なスタートとなるが、その不利を乗り越えて全日本No.1になっている指導者も多くおられることも知ってもらいたい。

◎ある先輩の時間確保の信念

ある先輩の先生が「クラブ活動の時間になったとき、仕事がないということはまずない。何があっても先ずクラブに出て仕事をしなければクラブは絶対に見ることが出来ない。周囲のものにも〝さあ、行くぞ〟と声をかけて出かけて行く」というのである。自分の生き方の中でクラブ指導の位置づけが成し得て出来る話であるが、何かを求めてクラブに出て来る者達がいる以上、その何かに応えてやれる指導者としての時間を確保したいものである。

II　誰もが勝ちたい

◎勝負はスポーツの原点

スポーツは試合があり、試合をすれば誰もが勝ちたいと思う。いくら「自分はハンドボールを通して教育が第一目標だから」とは言っても、スポーツは一面勝負事である以上、勝ちたいと思わないはずはない。勝負は指導者・選手・環境の相互関係によるものであり、いくらよい指導を行っても勝てないことはある。しかし、負けてばかりでは何時しか選手、指導者ともやる気がなくなっていく。恵まれているチームばかりではない。勝つチームもあれば、負けるチームもある。夢を捨てずに指導を続ければ必ず勝てると言うのがスポーツである。勝った喜びがさらなる次のエネルギーを呼んでくれる。指導者となったからには、勝つ喜び、勝つ方法論に挑戦してもらいたい。

◎勝つための方法論

これはやはり地道にハンドボールの指導理論を学んで実践し、数多くの経験を通して獲得して行かなければならないものである。この稿を進めるに当たっても速効的に役立つものから書き進めるべきと思いつつ、それが出来ないのは「さあ、やってやるぞ」と言う動機、あるいは指導者としての姿勢が出来なければ始まらないと思ってしまうからである。姿勢さえ出来れば指導に役立つ情報は身の回りにいくらでもあると思うのである。

回りくどいようであるが、皆さんとゆっくりと指導法の確立を目指して勉強して行きたいと思います。

III　競技力について

競技力とは、そのスポーツにおいて高い成果を発揮出来る能力と解することが出来るが、チームスポーツの場合、「チームとしての競技力」と「個人としての競技力」の両面から考えることが出来る。（図1）

◎個人競技力とチームプレイ

チームスポーツの場合、個人の競技力が高いものが集まれば、チームとして高い競技力を発揮出来ることが期待出来るが、それはチームを構成する個々がチーム独自のゲーム構想の元に統率されていることが前提になっていなければ
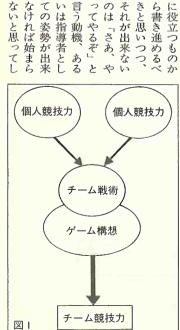
図 I

ならない。このゲーム構想の元での統率の善し悪しによって、個々の競技力が加算になったり減算になったり、素晴らしい指導者のもとでは積算になったりするものである。これがチームスポーツの面白さであり、難しさである。

Ⅳ ゲーム構想

◎ゲームは筋書きのないドラマか?

ゲームは「筋書きのないドラマ」と言われる。両者入り乱れ、知恵と知恵、技術と技術がぶつかり合うゲーム場面では、何が起こるかわからない。一方、「ゲームは造っていくもの」と言う考えもある。これは自チームと相手チームの戦力分析から、筋書き通りゲームを造り進めて行こうとするものである。

「筋書きのないドラマ」とは、観る側にとってのものであり、それを生み出す側は、あくまで筋書き通りのゲームを造って行こうとするものである。

◎チーム造りとゲーム構想

チーム造りをして行く際、ゲームでどんな戦い振りをするのかと言う「ゲーム構想」が先ずなければならない。

ゲームを観ていると、ただいたずらに偶然のプレイをもとにした戦い振りのチームもあれば、はっきりと意図を持って戦っているチームもある。意図を貫き通し、その意図に個性が感じられれば、そのチームには独特のイズムが生れる。かつてのミュンヘン・オリンピック時代の日本のチームを評して、ユーゴの監督が「あの頃の日本チームはイズムがあった。私は日本の速攻を学び、取り入れた」と言っていたのを思い出す。

◎世界を制したゲーム構想

現クウェートの監督であり、旧ソ連の監督として輝かしい成績を残したイトウ・チェンコ氏は「ハンドボールは、今後ますますテンポが速くなり、バスケットボールに似た方向へ進む」として速攻を攻撃の中心としたテンポのあるハンドボールを目指し、世界の頂点を極めた。ソウル・オリンピックのシステム的な速攻は、その考えを実現したものである。

一方、オリンピック2連勝した韓国女子チームは素早く、切れのよい動きとパスワークで、速いテンポとコンビのあるハンドボールを実現し、世界に新風を巻き起して、体型的に劣るアジア人でも世界の頂点に立てることを実証した。

◎コーチングとゲーム構想

ゲーム構想は、ゲームの進め方によって攻防の戦術はどの様なものを採用するか、選手の使い方はどうするのかなど具体的なイメージを示すものであり、コーチングはその実現に向けての過程といえる。従ってコーチングを始める際には、選手側にも目指すべきゲーム構想がよく徹底されていなければならない。

◎日本のゲーム指導の図式

日本の国民性か伝統的なスポーツが個人競技や対人競技であったせいか、個人的なものや名人芸的なものに目を向けがちで、ゲーム構想的なものに目を向けるのが不足しているようである。これは日本のスポーツ指導の図式が基本→応用→ゲームという型で表わされ、基本が出来れば応用が出来、応用が出来ればゲームは自ずと出来るという加算式の考えから来ているものと思われる。しかし、ゲームは筋書き通りに造るものとして考えれば、ゲーム構想のもとに戦術→応用→基本と減算式に考えて行くことが一方では必要である。

◎独自のゲーム構想の設定

ゲーム構想は選手の能力・個性・指導者の考えによって決まるが、10チームあれば10チーム分の個性ある構想が生まれてしかるべきである。しかし、なぜか個性的な構想を持ったチームは少ないのである。多くのチームが、この創造的なゲーム構想を練る前に、成果あるチームや勝ったチームの真似をしてしまうからであろうか。

何はともあれ、トップ、底辺のチームに関係なく、そのチームの指導者、選手の個性に応じた独自のゲーム構想を持ちたいものである。

◎ゲームは作品

ゲームはいわば創り出される作品である。個性あるゲーム構想や個人のプレイゆえに、いろいろな作品が生み出される。トップレベルのチームともなれば、その作品は多くの人の鑑賞に耐えられるものでなければならない。今年の正月もヨーロッパにハンドボールの試合を見に行った知人がいるが、当地から電話で「先生、本場のハンドボールは本当に面白いですね」と、今見て来たばかりのゲームに感嘆を込めて言う。確かにオリンピックや世界選手権を観ていると、必ず新しい技術や戦術が盛り込まれて来る。それがトップレベルのハンドボールであるのかと感心もさせられ、また指導者としてのモチベーションも沸き立たせてくれる。

◎ハンドボールの普及発展のために

マスメディアの時代にあって、今後ハンドボールが爆発的に普及して行くためには、その一つとしてゲームを如何に魅力的にして、多くの観衆を引きつけて行くかがある。毎度、同じ味の作品を見せられても、観衆は湧くはずはない。

私も指導者として自戒の念を込めて言うのであるが、勝負にこだわる余り、何の変哲もないハンドボールより、技術的にも新しいものに挑戦して行くことが、結果的には勝負に近道であり、日本のハンドボールを明るいものにして行くと信じてやって行きたいと思っている。

ハンドボール選手に多く認められる内科的障害とその対策

スポーツドクター
坂本　静男

ハンドボール競技選手の間では、どのような内科的あるいは外科的障害が、現在多く発生しているのであろうか。今回はそのうち内科的障害に焦点を絞り、1992年度に実施されたハンドボール競技強化選手（男子及び女子）のメディカルチェックの結果より述べることにします。そしてそこから浮び上がった問題点を挙げ、その対策に関して述べることにしましょう。

■92年度強化指定選手内科検診の結果

強化指定選手の検診（男子選手及び女子選手）は、毎年日本体育協会スポーツ診療所において実施されています。検診内容は内科診察、整形外科及び歯科診察を中心に、胸部X線写真、安静時心電図、尿検査、血液検査などです。特に今回は内科検診の結果を示すことにします。

練習や試合などに支障があると思われるプロブレム（異常）が認められた選手を、その内容と共に表1に示しました。診察を受けた男子選手29名のうち19名に、また女子選手18名のうち16名に、各々何らかのプロブレムを認めました。複数のプロブレムを保有している選手も、数多く認めました。

男子選手及び女子選手検診のプロブレムのまとめを、表2に示しました。鉄欠乏性貧血あるいは鉄欠乏症状が、男女共に約3分の1（男子11名、女子6名）に認められました。血清総コレステロール低値あるいは総蛋白低値といった栄養摂取不良状態が推測される選手も、男子選手で約4分の1（7名）と意外に多く認められました。

さらに特に女子選手の中に易疲労感、コンディション不良、関連事項としての睡眠障害あるいは睡眠不良を訴えている選手が2分の1（9名）と、非常に多く認められました。

表1．1992年度ハンドボール強化指定各選手のプロブレム

●男子選手29名に関して

氏　名	プロブレムの内容
M.T.	高尿酸血症
K.T.	高尿酸血症
S.N.	高尿酸血症
K.K.	鉄欠乏性貧血
H.T.	鉄欠乏性貧血
Y.S.	鉄欠乏性貧血、総蛋白低値、総コレステロール低値
M.U.	鉄欠乏性貧血
S.S.	血清鉄低値
H.K.	血清鉄低値
①K.U.	血清鉄低値
A.M.	血清鉄低値、総蛋白低値
M.H.	血清鉄低値、総蛋白低値
K.O.	血清鉄低値、総コレステロール低値
E.T.	血清鉄低値
T.G.	総蛋白低値
A.K.	総蛋白低値、アルコール性肝障害
②K.U.	総蛋白低値
S.O.	心電図異常（心室内変行伝導、洞徐脈）
H.I.	血清酵素高値（GOT50IU/1、CPK1377IU/1）

●女子選手18名に関して

氏　名	プロブレムの内容
A.K.	鉄欠乏性貧血、心電図異常（第1度房室ブロック）
M.M.	鉄欠乏性貧血
K.I.	血清鉄低値、扁桃腺炎
①Y.K.	血清鉄低値、総コレステロール高値、睡眠不良、便秘
①K.N.	血清鉄低値、易疲労感
②K.N.	血清鉄低値、拍動性頭痛、睡眠障害、月経痛、う歯
C.S.	総コレステロール低値、アレルギー性鼻炎
I.T.	高尿酸血症、易疲労感
N.O.	扁桃腺炎、易疲労感、腹痛（消化性潰瘍の既往）
②Y.K.	易疲労感
Y.M.	易疲労感、拍動性頭痛、う歯、睡眠障害
F.M.	コンディション不良、睡眠障害
T.N.	コンディション不良、睡眠障害
H.U.	アレルギー性鼻炎、頸部リンパ節腫脹
N.K.	アレルギー性鼻炎
R.Y.	アレルギー性鼻炎

■内科検診結果から判明した問題点

一般的にスポーツ選手において内科的障害として問題にされているものが、ハンドボール競技強化指定選手検診でも発見されました。貧血（多くは鉄欠乏性）、オーバートレーニング症候群、栄養摂取不良といったプロブレムです。これらすべてのプロブレムは、健康管理の上で問題になるばかりでなく、直接競技成績にも関わってくるものと考えられています。心肺持久性低下、精神的影響（集中力欠如）など、ハンドボール競技選手としては致命的な影響を受けるものと推測されるプロブレムです。それゆえ指導者及び選手の両者で、これらプロブレムにもっと注目して欲しい点です。

■プロブレム対策

○鉄欠乏状態あるいは鉄欠乏性貧血への対策

検診結果から推測して、おそらく日常の食事摂取の内容がハンドボール選手として必要なだけの蛋白質、鉄分及びビタミンが十分に摂取されていないことが考えられます。スポーツのことをよく理解している栄養士に依頼し、選手達の食事摂取内容のチェックを行ってもらうことが第一に必要と思われます。そのようなチェックの結果をみて不足している栄養素に関しては、可能な限り日常の食事の中で補充していくべきです。スポーツ選手でのこれら栄養素の1日所要量は、各々鉄分25～30mg、蛋白質1.5～2.0g／体重1kg、ビタミンC150～250mgが推奨されています。動物性蛋白質食品（豚肉、牛肉、魚、鳥肉）、緑黄色野菜（ほうれん草など）、柑橘類（レモン、みかんのビタミンCなど）などを十分に摂取していくことが重要です。

鉄欠乏状態では自覚症状の無いことがほとんどであり、また貧血が存在していても慢性化していると自覚症状（息切れ、立ちくらみ、めまい、動悸など）の無いこともま

れではありません。それゆえ定期的な血液検査も、予防対策の上で必要なことになってきます。

○オーバートレーニング症候群への対策

選手の多くは、軽度と判断されるオーバートレーニング症候群に陥っているように考えられます。これらの原因としては、トレーニングの質・量の問題やトレーニング実施の時間帯などが考えられます。アマチュアスポーツマンとしては当然のことですが、1日の勤務を終えてからトレーニングに励んでいるために、疲労が蓄積しやすく、どうしても睡眠時間に影響を及ぼしてくることが推測されます。これらの対策としては、1週間に2日前後の休養日（トレーニングの）を取り入れるか、勤務時間とのバランスを考えることが必要であろうと考えられます。

オーバートレーニング症候群の予防のためには、表3に示した事項を実施していくことが必要です。普段より日誌を記録して自覚症状やや他覚徴候のチェックを行い、早期に疲労徴候（倦怠感、食欲低下、睡眠障害、練習意欲低下など）を発見していくことです。また早朝起床時脈拍数を測定し、突然の脈拍数の増加（10拍／分以上）の出現に注意していくことも有用と考えられています。さらにPOMS検査（Profileof Mood States）を定期的に実施し、オーバートレーニング症候群に特徴的なパターン（疲労度、混乱度、抑鬱度が高得点、逆に元気度が低得点）の出現に注意していくことも、最近有用と考えられるようになってきています。

まとめ

ハンドボール競技選手であるかぎり、常に内科的あるいは整形外科的障害を有する危険性を持っていることになります。実際に障害を持つことのないようにするためには、トレーニング内容を適切にすること、適切な栄養摂取内容にすること、必要かつ十分な休養を取り入れること、定期検診を受けること、健康管理日誌を記録することなどが、必要と考えられます。

（監修・スポーツ医科学委員長西山逸成）

表2．1992年度ハンドボール強化指定選手検診プロブレムのまとめ

①男子選手について
1)鉄欠乏性貧血……………………………………4名
2)貧血前状態(血清鉄低値)………………………7名
3)総コレステロール低値…………………………2名
4)高尿酸血症………………………………………3名
5)総蛋白低値………………………………………6名
6)心電図変化(洞徐脈および心室内変行伝導)…………1名

②女子選手について
1)鉄欠乏性貧血……………………………………2名
2)貧血前状態(血清鉄低値)………………………4名
3)総コレステロール低値…………………………1名
4)総コレステロール高値…………………………1名
5)高尿酸血症………………………………………1名
6)心電図変化(第1度房室ブロック)………………1名
7)その他　　扁桃腺炎……………………2名
　　　　　　腹痛………………………1名

表3．オーバートレーニング症候群の早期発見法

①現在のトレーニング内容を常にチェック
　各個人に適切なトレーニング内容(量および強度)を
②トレーニング日記を各個人に書かせる
　自覚症状を中心に(疲労感、食欲、睡眠不良など)
③身体所見のチェック
　早朝起床時心拍数、体重、体温の変動
④POMS(profile of mood states)の変化
　vigor(元気度)の減少、
　depression(抑鬱度)
　fatigue(疲労度)
　confusion(混乱度)
　　　　　　　―の増加の出現に注意

平成6年度公認コーチ（ハンドボール）C級養成講習会

1．講習内容と講習会の方法

公認コーチ資格取得

共通教科	専門教科
内容　スポーツ一般の心理学 スポーツ医学 トレーニングの科学 指導理論等 方法　集合教育と通信教育 集合教育 前期　平成6年9月　4泊5日 後期　平成7年1月、2月　4泊5日 通信教育 平成6年10月より12月まで 3カ月間 日本体育協会主催	内容　ハンドボールの技術・戦術 ハンドボールにおける体力 ハンドボールの科学 指導法に関する理論と実践等 方法　集合教育 平成7年3月11日(土)～ 3月16日(木) 5泊6日 (財)日本ハンドボール協会主催

2．受講資格　22歳以上
　都道府県協会推薦　都道府県の指導的立場の指導者
　　　　　　　　　　都道府県で推薦できる若手の指導者
　日本協会推薦　　　強化部スタッフ
　　　　　　　　　　日本リーグスタッフ
　　　　　　　　　　ナシュナルスタッフ等
3．募集人員　　　　約50名
4．経費(受講料)共通教科　18,000円、専門教科　20,000円
　集合教育の宿泊費については補助する。
5．詳細は追って都道府県協会に連絡致します。

近畿ジュニアが韓国遠征

第1回韓国遠征を終えて

男子監督　東山高校　堀田　靖人

過年度より専門委員長会議の中で、課題とされていた近畿地区のレベルアップを図るとともに、選手育成を目標とする活動への取り組みの一環が、第1回韓国遠征の実現に至った。近畿全域を対象とし、地区大会を中心に男女20名の1、2年生が選考され、選抜チームづくりが行われた。

平成6年12月25日より29日まで5日間、韓国ソウル市の韓国体育大学において、男子・泳薫高校の金先生、女子・昌文女子高校の朴先生の指導の元、合同練習という形の中で実施が実現した。

体力づくり、フットワークを中心とし、パスワーク、ゲームと両国の高校生が交流する中、多種にわたる練習方法の実践を通して、体験・研修することが出来たことは、選手は元より私たち指導者にとっても有意義であった。

さて、選抜チームの構成は、桃山学院・小薮、北陽・下川が中心となり、明石清水・瀬尾、育英・今宮らのコンビが主力とする近畿として、最高のチームが編成出来たと自負しております。

泳薫高校では、韓国ジュニアチームのキャプテンを含む2名の長身ロングヒッターを中心に、パスワークにミスのない攻撃からパワフル、かつ技巧的に安定したシュート力とノーマークシュートの防御力が高いGKが主力となるチームであった。

フットワークの安定から生まれるミスのないパスワークからの攻撃、シュートフォームの安定とパワー、パスの正確性等、やはり低学年からの一環した指導の一部がうかがえるようなフォーム、足さばきが目を見張った。

金先生の指導に入ると、短時間の部分練習が流れるような早さで、多種多彩に変化して行く中、ゲームに即応していくフットワークの数々。その中で両国の高校生が時間とともにプレー意欲が高まっていくムードが強く、同じ練習を長時間繰り返す日本式と違い、パスプレーに至るまで、常にゲームを中心に即応していく練習と、高校指導者の忘れかけた基本技能の徹底する中で変化していくその方法に、私たちはくぎづけにされた思いであった。その内容については、また別記にし、報告できれば、近畿として更なる飛躍につながることが確信できる。

今回、このような機会が監督として得られたことは、関係協力者の方々に感謝致します。また第2回と継続性の重要さと必要性を痛感します。

韓国遠征に参加して

女子監督　夙川高校　井上　亮一

私自身にとって24年ぶりの韓国遠征が、12月25日より4日間の日程で京城を中心に現地高校生と試合及びトレーニングが行われました。

24年前は日韓大学交流の選手として参加致しましたが、今回は指導者として参加した。この24年間の年月が完全に立場を逆転させ、世界のトップクラスの実力を備える国に成長し、現在では日本の指導者が韓国の指導者に指導のイロハを伝授して頂くようになり、我々もその立場で参加致しました。

25日、金甫空港に到着後、直ちにトレーニング会場になっている韓国体育大学に向かう。午後1時30分頃、会場に到着した。お互い手の内が分からないまま、前半近畿選抜5－4のリードで折り返し、後半も前半同様の展開が終始され、結果14－12で第1戦を勝利する。心の中では、後はどうなるか分からないが、まず1勝できてホッとする。(明日からが怖い)

26日、朝食をとり、9時にホテルを出発、会場に向かう。今日の相手も昨日と同じ昌文女子中高であるが、昨日とムードが違うのが感じられた。午前中試合をし、午後からトレーニングの予定が組まれ試合が始まったが、昨日のようなミスはなく、前半から圧倒されっぱなしで26－9で完敗。実力の差をまざまざと見せつけられた。しかし選抜チームもまとまっての練習が2度しかやってなく、仕方ない状態ではあった。

27、28日の午前中まで同チームとトレーニングを行い、ソウル郊外2時間ほどにある議政府高校との韓国で最終ゲームを昌文女子中高校の監督に設定していただく。そのチームは新チームでは韓国のトップを争うチームだと聞き、闘争心が沸いてくる。実は、昌文女子中高校とゲームをやっていて、練習さえきちっとやっていればもっといい状態でできると思っていた。2時間ほどバスに揺られ、午後1時前に到着。2時45分より試合を行うことを決め、アップに入る。45分ほどの練習で、私はもちろん、コーチの先生方も自チームの練習を忘れ、その無駄のない練習の素晴らしさ、一つ一つがミスがなく、うなずけるものばかりであった。

　いざ試合が始まってみると、赤子の手をひねるがごとく、アッという間に4～5点連取される。我がチームは単発でシュートを決めるだけに、終始完敗であった。私自身、カルチャーショックを覚え、自分の考えの甘さを痛感した試合であった。その試合の後、議政府の小・中学校が練習を始めるが、それを見ているだけでも日本のシステムの貧しさを痛感した。

　このように短い期間ではありましたが、多くのものを経験し、自分たちの未熟さを身をもって体験できた。素晴らしい遠征であり、私自身、もっと頑張らねばと思う気持ちを高めさせてくれた遠征であったと思います。

　今後、永くこの遠征行事を続け、少しでも多くの生徒・指導者に経験をして頂ければと思います。そして近い将来、この選手たちの手で、強い日本を築いてほしいと思います。

第1回近畿ジュニア男女選抜親善交流試合結果

■男子の部

12月25日(土)
近畿ジュニア26－17泳薫高校
12月26日(日)
近畿ジュニア15－21泳薫高校
12月27日(月)
近畿ジュニア23－21泳薫高校
12月28日(火)
近畿ジュニア19－23泳薫高校

■女子の部

12月25日(土)
近畿ジュニア14－12昌文女子高校
12月26日(日)
近畿ジュニア12－24昌文女子高校
12月27日(月)
近畿ジュニア16－29昌文女子高校
12月28日(火)
近畿ジュニア16－29昌文女子高校
近畿ジュニア16－25議政府女子高校

近畿ジュニア選抜韓国遠征メンバー

■男子

役職	氏名	所属
団長	高橋　精一	(桃山学院高校)
監督	堀田　靖人	(東山高校)
コーチ	能波　羊二	(彦根工業高校)
	伊藤　公英	(長浜北高校)
選手	川井　昌彦	(桃　山)
	瀬尾　　実	(明石清水)
	根上　竜一	(桃　山)
	金谷　将央	(洛　北)
	三木　武史	(富　雄)
	今宮　満泰	(育　英)
	林　　孝行	(那　賀)
	小藪　憲次	(桃　山)
	井上　博人	(桃　山)
	四谷　文彦	(八日市)
	上田　直紀	(生　駒)
	岡田　隆介	(彦根工業)
	藤原　和明	(宝塚西)
	下川　真良	(北　陽)
	北川　　徹	(長浜北)
	三四　　勝	(北　陽)
	近藤　哲二	(彦根工業)
	六車英太郎	(桃　山)
	東　　聖士	(紀北農芸)
	今市　和宏	(神戸国際)

■女子

役職	氏名	所属
団長	高橋　精一	(桃山学院高校)
監督	井上　亮一	(夙川学院高校)
コーチ	田中　洋光	(那賀高校)
	辻　　吉和	(光華高校)
選手	池田玲皇奈	(園田学園)
	伏見麻美子	(四天王寺)
	前田　聡枝	(四天王寺)
	浦田　芳江	(洛　北)
	小寺　泰代	(洛　北)
	澤　麻理子	(洛　北)
	浦田　万紀	(洛　北)
	三島　美子	(夙川学院)
	西田由美子	(夙川学院)
	松本さゆり	(初芝橋本)
	松見　亜紀	(初芝橋本)
	倉　　和子	(夙川学院)
	綿谷　真紀	(明石清水)
	奥村　智美	(八日市)
	宇治原智子	(守山女子)
	田中　麻美	(洛　北)
	小崎久美子	(向　陽)
	有賀　彰子	(生　駒)
	河崎　真紀	(奈良白藤)
	小林由加理	(明　石)

各地の大会結果

北海道

北海道学生秋季リーグ戦

（10月8日〜10日／札幌市）

◎男子一部

函館大 37－16 北海学園大
道都大 19－18 小樽商科大
函館大 25－10 小樽商科大
北海道大 26－20 小樽商科大
札幌大 29－20 北海学園大
北海学園大 21－20 小樽商科大
道都大 30－20 北海学園大
函館大 20－13 北海道大
札幌大 20－18 北海道大
北海道大 22－16 北海学園大
札幌大 19－19 道都大
函館大 36－16 道都大
北海道大 22－13 道都大
函館大 48－17 札幌大
札幌大 23－15 小樽商科大

（順位）①函館大②札幌大③北海道大④道都大⑤北海学園大⑥小樽商科大

＊最優秀選手＝渡辺幸生（函館大）。優秀選手＝堀木敬仁、反田浩、山田諭、角田博美（以上函館大）、山根耕司（札大）、川上吉祥（北大）。得点王＝麓貴弘（北大）、波田地真路（樽商大）

◎男子二部

函教大 29－19 室工大
札学大 21－20 釧教大
北工大 27－27 道工大
釧教大 31－18 北工大
道工大 20－19 函教大
札学大 27－21 室工大
札学大 18－16 道工大
函教大 36－25 北工大
釧教大 28－17 室工大
函教大 26－18 釧教大
札学大 26－24 北工大
道工大 17－16 室工大
北工大 23－17 室工大
道工大 25－17 釧教大
札学大 21－20 函教大

（順位）①札幌学院大②北海道工業大③北教大函館校④北教大釧路校⑤北見工業大⑥室蘭工業大

◎男子三部

釧公大 23－21 北大医
北星大 29－19 旭教大
帯畜大 35－13 学園北見
釧公大 35－22 学園北見
北大医 23－22 北星大
帯畜大 24－22 旭教大
帯畜大 28－15 釧公大
旭教大 29－29 北大医
北星大 34－9 学園北見
旭教大 24－17 釧公大
北星大 23－15 帯畜大
北大医 22－7 学園北見
帯畜大 28－20 北大医
旭教大 26－4 学園北見
北星大 31－16 釧公大

（順位）①北星大②帯広畜産大③北教大旭川校④北海道大学医学部⑤釧路公立大⑥北海学園北見大

◎女子

道女短 28－14 北星大
北星大 16－22 旭教大
道女短 35－7 旭教大

（順位）①北海道女子短期大②北星学園大③北教大旭川校

＊優秀選手＝中村弥生、得点王＝中村弥生（道女短）

東北

東北学生秋季リーグ戦

（10月5日〜8日／仙台市）

◎男子一部

学院大 33－19 秋田大
福祉大 42－13 岩手大
秋田大 32－28 福島大
仙台大 35－13 岩手大
仙台大 25－20 福島大
秋田大 27－18 岩手大
仙台大 29－23 福祉大
学院大 47－16 福島大
学院大 35－18 仙台大
福祉大 36－22 福島大
学院大 31－14 岩手大
福祉大 33－23 秋田大
福島大 23－22 岩手大
仙台大 37－24 秋田大
福祉大 30－27 学院大

（順位）①東北学院大②東北福祉大③仙台大④秋田大⑤福島大⑥岩手大

＊ベストセブン＝GK・佐藤秀行、CP・佐藤雄毅、矢吹竹史（以上、学院大）、佐藤正紀、大内一憲（以上、福祉大）、高桑繁夫、大庭忍（以上、仙台大）

得点王＝遠藤充孝（福島大）

◎男子二部

山形大 29－18 宮教大
盛岡大 26－20 東北工大
東北大 25－17 盛岡大
東北大 31－14 山形大
宮教大 26－22 東北工大
盛岡大 26－15 宮教大
盛岡大 24－22 山形大
東北大 32－11 東北工大
東北大 23－14 宮教大
山形大 31－19 東北工大

（順位）①東北大②盛岡大③山形大④宮城教育大⑤東北工業大

◎男子三部

日大工 21－18 秋田経法
秋田経法 24－24 北里大水
北里大獣 31－19 日大工
弘前大 29－18 秋田経法
北里大獣 37－19 北里大水
日大工 22－21 北里大水
弘前大 36－12 日大工
北里大獣 29－17 秋田経法
北里大 26－20 弘前大

（順位）①北里大（獣）②弘前大③日大工学部④秋田経法大（オープン参加）北里大（水）

◎女子

岩手大 53－7 宮教大
福島大 38－9 北里大
秋田大 31－4 宮教大
福祉大 39－15 岩手大
福島大 34－5 秋田大
福島大 50－6 宮教大
秋田大 16－9 北里大
福祉大 42－5 秋田大
岩手大 24－20 福島大
北里大 27－9 宮教大
福祉大 61－3 宮教大
岩手大 35－6 北里大
岩手大 18－8 秋田大
福祉大 36－21 福島大

（順位）①東北福祉大②岩手大③福島大④秋田大⑤宮城教育大（オープン参加）北里大（獣）

＊ベストセブン＝GK・秋房泰子、CP・大島美恵、竹田幸美、金子由佳（以上、福祉大）、西條美子（岩手大）、豊川浩子（福島大）、五十嵐友紀子（岩手大）

得点王＝渡辺あゆみ（福祉大）

◎男子一・二部入替戦

東北大 22－17 岩手大
（二部1位）　（一部6位）

◎男子二・三部入替戦

東北工大 29－28 北里大獣
（二部5位）　（三部1位）

青森県高校秋季大会

（11月20、21日／野辺地町）

◎男子

▼1回戦

五所工 28－2 七戸
青森高 35－11 青森東
青森南 20－19 三本木
青山田 22－19 野辺地
今別 38－7 横浜分
十和工 24－3 野辺工
三農 20－11 五所高
青森商 37－3 鰺ヶ沢

▼2回戦
青森高 16－6 五所工
青山田 21－16 青南
今別 31－6 十和工
青森商 41－4 三農

▼準決勝
青山田 14－13 青森高
青森商 21－15 今別

▼決勝
青森商 25（16－7、9－7）14 青山田
※青森商は8年連続15回目

◎女子
▼1回戦
今別 17－4 青森東
青森商 20－19 六ヶ所

▼2回戦
三本木 19－14 今別
青森西 40－2 野辺工
野辺地 17－15 青森南
青森中央 18－13 青森商

▼準決勝
青森西 26－19 三本木
青森中央 24－6 野辺地

▼決勝
青森中央 22（10－7、12－9）16 青森西
※青森中央は2年ぶり5回目

宮城県高校新人大会

（日時／会場不明）

◎男子
▼1回戦
仙台一 30－14 仙台東
仙台 26－13 宮城広瀬
泉松陵 32－9 泉館山
塩釜 25－6 宮城水産
仙台向山 21－14 築館
仙台三 17－6 東北
佐沼 25－6 東北電子
古川商 29－5 古川
登米 45－3 学院榴岡

▼2回戦
仙台育英 32－7 仙台一
泉松陵 13－7 仙台
名取北 23－10 塩釜
古川工 46－14 仙台向山
仙台南 16－7 仙台三
佐沼 24－17 仙台西
古川商 26－12 仙台二
仙台商 23－14 登米

▼3回戦
仙台育英 29－9 泉松陵
古川工 31－20 名取北
仙台南 20－18 佐沼
古川商 22－16 仙台商

▼準決勝
仙台育英 30－20 古川工
仙台南 16－15 古川商

▼決勝
仙台育英 25（12－6、13－5）11 仙台南
※仙台育英は2年ぶり12回目の優勝

◎女子
▼1回戦
明成 16－11 仙台南
宮城広瀬 15－4 佐沼
泉館山 22－2 築館女
涌谷 20－7 仙台西

▼2回戦
聖和学園 18－9 明成
古川女 25－11 泉松陵
宮城二女 27－6 名取北
宮城一女 26－4 宮城広瀬
古川商 22－6 泉館山
仙台女商 19－6 塩釜女
登米 21－16 仙台東
宮城三女 18－6 涌谷

▼3回戦
聖和学園 35－9 古川女
宮城一女 16－10 宮城二女
古川商 31－10 仙台女商
宮城三女 33－10 登米

▼準決勝
聖和学園 15－8 宮城一女
古川商 15－10 宮城三女

▼決勝
聖和学園 26（11－1、15－9）10 古川商
※聖和学園は9年連続11回目の優勝

山形県総合選手権

（日時／会場不明）

■小学生の部
◎男子
▼準決勝
東根スポ少A 15－4 荻袋小スポ少
尾花沢スポ少A 13－4 高崎小

▼決勝
東根スポ少A 9－4 尾花沢スポ少A

◎女子
▼準決勝
東根スポ少 10－0 高崎小
神町スポ少 6－5 荻袋小スポ少

▼決勝
東根スポ少 8－3 神町スポ少

■高校の部
◎男子
▼1回戦
山形中央 12－9 山形東A
上山明新館 14－6 新庄工業A
寒河江工業 7－6 山形南B
山形東B 13－12 真室川
寒河江 16－8 山形工業B

▼2回戦
東根工業B 18－12 山形中央
山本学園B 18－9 上山明新館
山形工業A 8－7 北村山B
日大山形A 11－5 寒河江工業
北村山A 22－10 山形東B
山本学園A 13－10 日大山形B
山形南A 24－3 新庄工業B
東根工業A 16－1 寒河江

▼3回戦
東根工業B 23－3 山本学園B
日大山形A 14－8 山形工業A
北村山A 13－10 山本学園A
東根工業A 13－8 山形南A

▼準決勝
東根工業B 14－11 日大山形A
北村山A 14－12 東根工業A

▼決勝
東根工業B 19（10－4、9－8）12 北村山A
高校B

◎女子
▼1回戦
東根工業 13－3 上山新明館

▼2回戦
北村山A 15－1 東根工業
北村山C 11－6 米沢女子A
北村山B 20－1 山本学園A
日大山形 16－3 米沢女子B

▼準決勝
北村山A 24－8 北村山C
北村山B 21－6 日大山形

▼決勝
北村山 高校B 20（8－3、12－4）7 北村山 高校A

■一般の部
◎男子
▼1回戦
東根クラブA 30－10 新庄クラブ
山形新球会 12－11 北村山OB
山形航空電子 34－12 鶴陵クラブ
東根クラブB 28－17 山形大学

▼準決勝
東根クラブA 29－24 山形新球会
東根クラブB 31－20 山形航空電子

▼決勝
東根クラブA 30（17－16、13－13）29 東根クラブB

◎女子
優勝 殖産銀行クラブ

関東

群馬県中学新人大会

（11月3、7日／富岡市）

◎男子

富南中19－14藤南中
富西中22－10藤北中
富岡中23－7下西中

▼準決勝

富東中23－12富南中
富岡中17－9富西中

▼決勝

富東中15－7富岡中

◎女子

▼1回戦

高南中16－4南八中

▼2回戦

富南中32－5高南中
富岡中14－13富西中
富東中15－2矢中中
塚沢中18－1相生中

▼準決勝

富南中26－10富岡中
富東中15－9塚沢中

▼決勝

富南中12－8富東中

茨城県高校新人大会

（日時／会場不明）

◎女子

▼1回戦

竹園11－10結城二

▼2回戦

水海道二42－1竹園
聖徳学園15－14龍ヶ崎二
藤代15－9鉾田一
磯原10－7並木
水戸二15－5守谷
伊奈28－4高萩
龍ヶ崎一31－5下館二
日立二18－6牛久栄進
麻生32－1総和
愛国学園18－14石岡二
岩井24－7太田二
中央12－9土浦三
下妻二25－9岩井西
鉾田二20－17勝田
水海道一31－5笠間
藤代紫水24－6土浦二

▼3回戦

水海道二12－9聖徳学園
磯原15－6藤代
伊奈25－8水戸二
龍ヶ崎一18－9日立二
麻生12－11愛国学園
岩井21－8中央
下妻二27－7鉾田二
藤代紫水22－13水海道一

▼4回戦

水海道二43－3磯原
龍ヶ崎一25－9伊奈
麻生22－20岩井
藤代紫水23－16下妻二

▼準決勝

水海道二22－8龍ヶ崎一
麻生19－16藤代紫水

▼3位決定戦

藤代紫水17－15龍ヶ崎一

▼決勝

水海道二18（10－8、3－9）12麻生

茨城県総合選手権

（日時／会場不明）

◎男子

▼1回戦

麻生高18－16茨苑クラブ
麻生フェニ19－18笠間高
笠間クラブ18－11霞ヶ浦高
土浦三高ク17－16土浦日大高
水海道一高23－11鹿島灘リベラル
利根クラブ15－10岩井高OB
戸頭中OB23－11守谷高
守谷セブン24－14日本原研
筑波振球会23－17伊奈高OB
波崎クラブ20－12藤代クラブ
グレートディパーズ19－13太田クラブ
伊奈高20－16常陽銀行
岩井高17－16レッドリバーズ

▼2回戦

茨城コンドルズ28－15麻生高
麻生F29－13動燃東海
水海道一高18－17笠間クラブ
利根クラブ20－12土浦三高ク
戸頭中OB23－22筑波振球会
守谷セブン25－17波崎クラブ
岩井高20－13グレートD
茨城大学16－13伊奈高

▼3回戦

茨城コンドルズ38－15水海道一高
麻生F17－16利根クラブ
戸頭中OB27－15岩井高
茨城大20－14守谷セブン

▼準決勝

茨城コンドルズ35－23戸頭中OB
麻生F19－17茨城大

▼決勝

茨城コンドルズ26（13－15、13－5）20麻生フェニックス

◎女子

▼1回戦

竜ヶ崎二高14－10鉾田一高
麻生高A16－13水海道一高

▼2回戦

水海道二高A25－6竜ヶ崎二OG
御城クラブ19－7桜芳クラブ
聖徳高25－8高萩高OG
茨城大15－13筑波学園ク
下妻二高17－2笠間高
竜ヶ崎二高14－10結城二高
麻生高A18－7すずかけク
水海道二高A17－12麻生高B

▼3回戦

水海道二高A24－8聖徳高
茨城大21－16御城ク
麻生高A35－10下妻二高
水海道二高B26－9竜ヶ崎二高

▼準決勝

水海道二高A22－17麻生高A
茨城大16－5水海道二高B

▼決勝

茨城大学22（11－8、11－7）15水海道二高A

千葉県実業団秋季リーグ戦

（11月27日～12月5日／出光体育館）

◎男子順位

①海自下総（7勝0敗）②出光千葉（6勝1敗）③海自館山（4勝2敗1分）④コスモ石油（4勝2敗1分）⑤三井石化（3勝4敗）⑤海自木補（2勝5敗）⑦日産化学（1勝6敗）⑧東京ガス（0勝7敗）

横浜地区高校新人大会

（8月24～26日／日野高）

◎男子

▼1回戦

横浜商大23－3川和
科技横浜15－6大岡
緑ヶ丘12－4富岡
柏陽12－7永谷

▼2回戦

荏田23－13光陵
南13－12和泉
松陽31－4上矢部
県商工10－7希望ヶ丘
桐蔭学園13－11横浜商大
東9－5立野
金沢31－2金井
科技横浜14－9旭
桜ヶ丘18－5緑ヶ丘
瀬谷17－12港北
元石川6－5清水ヶ丘
日野22－16翠嵐
慶応21－9鶴見
平沼17－11上郷
霧が丘11－8市ヶ尾
浅野17－13柏陽

▼3回戦

荏田21－14南
松陽26－8呉商工
桐蔭学園27－6東

金沢 20－12 科技横浜
桜丘 16－9 瀬谷
日野 21－8 元石川
平沼 24－15 慶応
浅野 22－11 霧が丘

▼4回戦
荏田 18－15 松陽

▼準々決勝
金沢 12－12 桐蔭学園
（PTC勝ち）
日野 15－14 桜丘
浅野 18－14 平沼
横浜商工 29－10 荏田

▼準決勝
横浜商工 27－13 金沢
浅野 23－16 日野

▼決勝
横浜商工 21－10 浅野

◎女子

▼1回戦
平沼 28－5 戸塚
翠嵐 12－9 東
立野 不戦勝 岡津
旭 13－10 上郷
金沢 18－5 桜丘
霧が丘 10－8 県商工
緑ヶ丘 11－1 南
横浜創英 18－6 永谷
希望ヶ丘 9－5 金井
元石川 15－3 市ヶ尾
高木学園 12－6 川和
松陽 17－2 瀬谷
富岡 5－3 桐蔭学園
荏田 23－2 鶴見

▼2回戦
平沼 25－6 翠嵐
旭 16－3 立野
金沢 41－3 霧が丘
横浜創英 23－4 緑ヶ丘
成美 14－8 希望ヶ丘
高木学園 10－5 元石川
松陽 19－7 富岡
日野 20－6 荏田

▼3回戦
平沼 16－14 旭
金沢 13－11 横浜創英
高木学園 15－12 成美
日野 26－8 松陽

▼4回戦
明倫 35－6 平沼

▼準決勝
明倫 19－6 金沢
日野 11－8 高木学園

▼決勝
日野 14－13 明倫

信越

長野県高校新人大会

（11月6～7日／更埴市）

◎男子

▼1回戦
臼田 28－8 富士見
蟻ヶ崎 36－13 千曲
小諸 20－8 坂城
上田 25－16 長野東
更級農 19－16 清陵
野沢北 25－13 松本一

▼2回戦
屋代 30－5 臼田
小諸 28－11 蟻ヶ崎
田川 29－14 上田
野沢北 23－10 更級農

▼準決勝
屋代 18－10 小諸
野沢北 18－15 田川

▼決勝
屋代 17（7－8, 10－6）14 野沢北

◎女子

▼1回戦
長野南 12－0 美須々
松本一 21－12 坂城
更級農 14－11 田川

▼2回戦
屋代 38－6 長野南
蟻ヶ崎 22－15 小諸商
塩尻 31－6 松本一
更級農 25－12 臼田

▼準決勝
屋代 18－10 蟻ヶ崎
塩尻 33－9 更級農

▼決勝
屋代 24（14－8, 10－5）13 塩尻

東海

三重県民体育大会

（10月2～3日／名張西高）

◎少年男子

▼1回戦
亀山市 24－19 桑名市
津市 24－11 上野市
四日市市 42－2 三重郡
鈴鹿市 20－12 尾鷲市

▼準決勝
亀山市 30－8 津市
四日市市 38－10 鈴鹿市

▼決勝
四日市市 17－8 亀山市

◎少年女子

▼1回戦
名張市 16－14 三重郡
上野市 17－10 津市

▼準決勝
四日市市 20－6 名張市
上野市 17－4 鈴鹿市

▼決勝
四日市市 12－3 上野市

◎成年男子

▼1回戦
尾鷲市 12－0 員弁郡

▼2回戦
鈴鹿市 32－10 尾鷲市
亀山市 13－11 久居市
津市 18－17 名張市
四日市市 25－17 三重郡

▼準決勝
鈴鹿市 26－9 亀山市
四日市市 27－11 津市

▼決勝
※雨天のため2チームが優勝

◎成年女子

▼1回戦
名張市 20－5 尾鷲市
鈴鹿市 17－10 三重郡

▼準決勝
四日市市 22－6 名張市
鈴鹿市 10－8 津市

▼決勝
※雨天のため2チームが優勝

近畿

京都府高校新人大会

（10月31日～11月21日／乙訓高校他）

◎男子

▼予選リーグ（順位）

A ①北嵯峨②西乙訓③田辺④八幡

B ①洛北②塔南③日吉丘④木津

C ①東宇治②南八幡③伏見工業④京都学園

D ①山城②東山③乙訓④洛東

E ①大谷②京都両洋③洛西④西宇治

F ①洛水②城南③堀川④同志社⑤宇治

G ①向陽②洛星③平安④北稜⑤城陽

H ①京都西②嵯峨野③桃山④桂⑤久御山

▼1回戦

北嵯峨 20－15 洛星

京都西 40－13 塔南

大谷 18－15 南八幡

城南 9－8 山城

東宇治 23－12 嵯峨野

西乙訓 21－16 洛水

向陽 17－7 東山

洛北 45－13 京都両洋

▼2回戦

北嵯峨 18－17 京都西

大谷 17－13 城南

東宇治 25－11 西乙訓

洛北 13－11 向陽

▼準決勝

北嵯峨 16－14 大谷

東宇治 14－10 洛北

▼3位決定戦

大谷 17－16 洛北

▼決勝

北嵯峨 16（10－5、6－9）14 東宇治

※北嵯峨は2年連続2回目

◎女子

▼予選リーグ（順位）

ア ①洛北②日吉丘③桃山④北稜

イ ①向陽②洛水③光華④西京商業

ウ ①東宇治②北嵯峨③西宇治④京都学園

エ ①東稜②城南③南八幡④桂

オ ①山城②府立商業③西乙訓④乙訓⑤西山

カ ①京都女子②精華女子③久御山④明徳商業⑤塔南

▼1回戦

洛水 17－8 府立商業

京都女子 16－12 北嵯峨

城南 8－5 山城

日吉丘 12－8 精華女子

▼2回戦

洛北 30－4 洛水

京都女子 14－12 東稜

東宇治 12－6 城南

向陽 24－6 日吉丘

▼準決勝

洛北 17－4 京都女子

向陽 19－9 東宇治

▼3位決定戦

京都女子 13－6 東宇治

▼決勝

洛北 22（13－1、9－4）5 向陽

※洛北は4年連続4回目

大阪高校新人大会

（11月26～28日／堺市）

◎男子

▼1回戦

春日丘 27－11 清風

北陽 23－8 三国丘

大商大堺 14－13 桜宮

此花学園 38－7 関西大倉

都島工 33－7 島上大冠

初芝 16－16 上宮

PTC 7－6

桃山学院 31－8 堺東

大商学園 31－3 三島

▼2回戦

北陽 24－13 春日丘

此花学院 28－14 大商大堺

都島工 22－12 初芝

桃山学院 18－17 大商学園

▼準決勝

此花学園 22－15 北陽

都島工 19－15 桃山学院

▼3位決定戦

桃山学院 32－20 北陽

▼決勝

此花学院 14（9－3、5－8）11 都島工業

◎女子

▼1回戦

金蘭会 20－15 春日丘

阪南 21－12 東百舌鳥

大谷 40－3 堺東

桜宮 27－7 大東

岸和田 14－10 香里丘

四天王寺 14－4 福島女

宣真 26－3 城南学園

摂津 30－13 鳳

▼2回戦

金蘭会 18－17 阪南

大谷 20－13 桜宮

四天王寺 29－5 岸和田

宣真 21－4 摂津

▼準決勝

大谷 33－5 金蘭会

宣真 14－12 四天王寺

▼3位決定戦

四天王寺 23－4 金蘭会

▼決勝

宣真 14（9－5、5－5）10 大谷

和歌山県秋季選手権

（10月31日～11月7日／那賀高）

■高校・一般の部

◎男子

県和商高 16－12 紀北農芸高

白馬ク 20－11 和歌山東高

市和商高 21－8 貴志川高

和歌山大 14－10 耐久高

海南高 17－10 笠田高

近附高 16－12 箕島高

那賀高 11－6 新宮商高

和歌山ク 13－13 和高専

PTC 3－2

有田オールスターズ 22－11 和工商

▼2回戦

那賀ク 28－16 県和商高
白馬ク 14－13 桐蔭高
和歌山大 15－10 市和商高
御坊商工高 11－10 海南高
海南ク 20－18 近附高
粉河ク 14－11 那賀高
県和商ク 21－17 和歌山ク
有田AS 16－11 粉河高

▼3回戦
那賀ク 31－12 白馬ク
和歌山大 26－6 御坊商工高
粉河ク 15－9 海南ク
県和商ク 16－10 有田AS

▼準決勝
那賀ク 27－11 和歌山大
県和商ク 20－17 粉河ク

▼決勝
那賀ク 24－13 県和商ク

◎女子

▼1回戦
海南高 12－6 粉河高
貴志川ク 8－5 県和商ク

▼2回戦
那賀高 18－7 海南高
笠田高 22－0 御坊商工高
県和商高 13－7 貴志川高
オレンジ 10－8 新宮商高
NO NAMES 15－6 和歌山大
笠田高3年 16－2 桐蔭高
那賀ク 16－3 箕島高
初芝橋本高 19－5 貴志川ク

▼3回戦
那賀高 12－6 笠田高
県和商高 11－5 オレンジ
NO NAMES 15－4 笠田高3年
那賀ク 13－11 初芝橋本高

▼準決勝
那賀高 19－3 県和商高
NO NAMES 15－9 那賀ク

▼決勝
那賀高 12（6－6、2－5）7 NO NAMES

■中学校の部

◎男子

▼1回戦
湯浅中 18－10 近附中
有功中 24－9 岩出二中

▼2回戦
那賀中 24－11 湯浅中
紀伊中 19－13 貴志川中
打田中 20－19 岩出中
有功中 18－12 金屋中

▼準決勝
紀伊中 18－16 那賀中
有功中 23－8 打田中

▼決勝
紀伊中 19－10 有功中

◎女子

▼予選リーグ（順位）
A ①岩出二中②貴志川中③打田中
B ①岩出中②那賀中③桃山中④粉河中

▼準決勝
岩出二中 17－8 那賀中
岩出中 27－5 貴志川中

▼決勝
岩出中 12－7 岩出二中

※平成5年度優秀選手＝小川俊幸（岩出中）、谷川若菜（岩出中）、前田友哉（粉河高）、薮内由香（那賀高）、谷口景子（那賀高）、藤岡徹（那賀ク）、木村嘉男（那賀ク）、笠中喜次（那賀ク）

中国

山口県高校選手権

（9月26、27日／下関市）

◎男子一部

▼1回戦
高水 18－10 徳山工

▼2回戦
下松工 18－10 高水
岩国 22－11 徳山
岩国工 14－12 下関中央工
岩陽 23－8 下松

▼準決勝
下松工 14－11 岩国
岩国工 12－11 岩陽

▼決勝
下松工高 17（10－8、7－7）15 岩国工高

◎男子二部

▼1回戦
下関西 23－10 宇部工
華陵 22－8 防府西
下関一 10－8 野田学園
下関工 19－10 小野田工
南陽工 21－13 岩国商
徳山商 26－8 防府商

▼2回戦
下関西 12－9 山口
華陵 18－8 下関一
下関工 18－6 南陽工
西京 13－11 徳山

▼準決勝
下関西 19－12 華陵
西京 10－9 下関工

▼決勝
下関西 26－11 西京

◎女子一部（リーグ戦）
岩国商 15－14 高水
華陵 13－12 徳山商
華陵 19－9 岩国商
高水 17－9 徳山商
高水 11－6 華陵
岩国商 23－16 徳山商
（順位）①高水②華陵③岩国商④徳山商

◎女子二部

▼1回戦
岩陽 15－6 防府商
西京 13－10 長府
岩国 10－8 徳山
下松 15－6 防府西
高森 25－7 新南陽

▼2回戦
熊毛北 16－4 岩陽
岩国 10－9 西京
下松 32－6 響
高森 14－7 山口中央

▼準決勝
熊毛北 15－4 岩国
高森 12－10 下松

▼決勝
高森高校 6（3－4、3－1）5 熊毛北高

(財)日本ハンドボール協会編
『ハンドボール』
第三三九号
昭和四十年六月七日 平成六年二月二十六日 印刷
第三種郵便物認可 平成六年三月一日 発行
東京都渋谷区神南一―一―一 編集兼
電話 代表 三四八一―二三六一
振替 東京 六―五八三四八番 発行人
中澤重夫

定価三百五拾円
(年間購読料三千三百円)